沖縄タイムス　2024年（令和6年）　2月2日 金曜日

平和願う「沖縄のこころ」共有

県出身者ら 川崎から発信

【川崎】沖縄から平和のメッセージを発信する県主催のシンポジウムが1月28日、川崎市の複合商業施設「ラ　チッタデッラ」で開かれた。「かたらな平和」と題し、国内外で活動する県出身者らがそれぞれの立場から平和について講演。地域や世代を越えて、平和を願う「沖縄のこころ」を共有した。

（東京報道部・嘉良謙太朗）

ひめゆり平和祈念資料館の普天間朝佳館長は、資料館が建てられた経緯やこれまでの活動内容を報告。「戦争体験者は二度と戦争を起こしてはならないと体験を伝え続けてきた。バトンは私たちに渡されている」と語り、戦争回避のため共に声を上げていきたいと訴えた。

カンボジアで医療活動を続けるＮＰＯ法人ジャパンハートの医師、嘉数真理子さんは沖縄のこころとは何か問われ「ゆいまーる」を挙げた。「困っている人に手を差し伸べたり、行動したりすることで自分や周囲も変わり、世の中が良くなる」と話した。

「沖縄のこころ」について語る（左から）アルベルト城間さん、嘉数真理子さん、普天間朝佳さん＝1月28日、川崎市・「ラ　チッタデッラ」

ラテンバンド、ディアマンテスのアルベルト城間さんは音楽の力について「不思議なもので心が一つになる。誰だって平和が好きだ」と強調。シンポジウムの最後には、世界のウチナーンチュ大会のテーマ曲となった「片手に三線を」を披露し、会場と心を一つにした。